デーリー東北新聞社提供

デーリー東北
2022年（令和4年）2月15日（火曜日）（19）

私見創見 Tuesday

南部のダイヤモンドにしよう

菱刺しの魅力

川守田礼子
八戸工業大感性デザイン学部准教授

かわもりた・れいこ
1967年、旧福地村生まれ。東北大文学部卒。八戸工大二高を経て、2001年より八戸工業大で勤務。人形浄瑠璃文楽などの伝統芸能や染織に関わる伝統文化、特に南部菱（ひし）刺しが研究テーマ。第3回インテリジェント・コスモス東北文化奨励賞を受賞。文楽はちのへ塾主宰。

今年からコラムを担当させていただきます。私、生まれも育ちも旧福地村、馬淵川で産湯を使ったかは不明ですが、名久井岳を仰ぎながら小中学校に通学しました。幼いころから親しんできた地元新聞でこのような機会をいただけるのは本当に光栄です。どうぞよろしくお願いいたします。

……◇……◇……

私は、青森県南部地方に伝わる刺し子「南部菱刺し」の研究を進めている。布の補強、保温および装飾としての刺し子技術は世界各地に見られ、日本でも全国にさまざまな刺し子が分布している。日本三大刺し子のうちの二つ、こぎん刺しと南部菱刺しが青森県にあり、実は日本有数の刺し子県なのだ。

しかし、ここ南部地方で菱刺しを身近に見かける機会は少なく、地元出身の学生たちに聞いても「刺し子って何ですか？」という声が多いのが現状だ。全国的に知られている地元の伝統文化、それも北国の暮らしに根ざした地域性の強い文化なのに残念なことだ。南部菱刺しを英語表記すると「Nambu Diamond Embroidery」。宝飾用に研磨したダイヤモンドの形が菱形に見えることから、このように称する。名称の通り「南部のダイヤモンド」としての菱刺しの価値を見直したいものである。

八戸工業大学菱刺しラボでは、学生たちと南部菱刺しの魅力発信に関する取り組みを行っており、今年度は公益財団法人青森学術文化振興財団の助成事業として「菱刺しAtoZ－菱刺しがわかるビジュアルブック」を製作した。

コンセプトはA～Zの26のキーワードで菱刺しをひも解こうというもの。八工大HPにてデジタル版公開を予定しているので、ご興味のある方はぜひご覧いただきたい。

菱刺しラボの学生がなぜ菱刺しに興味を持ったか、最も多いのは、幼いころから祖母や母の縫い物をする姿を間近に見て親近感を持ったから、というものである。「菱刺しAtoZ」製作にご協力くださった菱刺し製作者に伺っても、菱刺しを始めるきっかけは家族の影響とおっしゃる方が多かった。

かくいう私も、和裁をする母が原風景にある。静かに針を動かす母をずっと側で見ているうちに、ある日突然、着物愛が芽生えた。さらに、染織物全般への興味が湧いた。布と針により生み出された物に触れていると、自然と心が和んでくる。それはたぶん、物の先に人の存在、人のぬくもり、共に過ごした時間、歴史を感じるからだと思う。

「菱刺しAtoZ」で伝えたかった菱刺しの魅力も、伝統工芸品としての教科書的な価値ではなく、人の日常に密着してきた刺し子の柔らかな底力なのである。

「おうち時間」増大により、手芸人気が高まっている。その中でも、菱刺しやこぎん刺しなど、初心者でも手軽に始められる刺し子が人気だそうだ。十年来、大学の授業で菱刺し体験を行っているが、針を持ったこともないという学生でも、簡単な説明だけで意外にすんなり取り組めるところが刺し子の強みである。

体験を踏まえて刺し子の意義や効果について論じさせたところ、次のような意見が出た。

【創造的効果】個性の表現、オリジナリティーの発露、生活を彩り美しく飾る喜び

【実用的効果】布の保温性向上・補強、布を大切にする心の芽生え、機械に頼らないことの良さ

【心理的効果】集中力養成、達成感、脳の活性化、心が落ち着く、ストレス解消、繊細になる、温かい気持ちになる

【人間関係的効果】コミュニケーション、楽しく会話しながら作業できる

短時間の体験学習でも菱刺しの本質に迫る実感を得ていることに驚いた。刺し子のような布と針の手仕事が、私たちの日常から離れてしまったのはいつ頃だろうか。昔の暮らしには戻れないが、物があふれ、物の実感が分かりにくい現代だからこそ、刺し子の愚直さは見直されるべきではないだろうか。

※この記事・写真等は、デーリー東北新聞社の承諾を得て転載しています。